

去る6月5日、国立京都国際会館にて、科学・技術の重要性や産学官連携の成果を国民に広くPRする目的で、「科学・技術フェスタ in 京都—平成22年度産学官連携推進会議—」が開催されました。

この、イベントホールに大学や研究機関に混じり「ビジネス支援図書館協議会」もブースを設け、図書館におけるビジネス支援サービスについて“営業”してきました。メンバーは津山の大河原さん、新潟県立図書館の奥山さん、図書館を活用して起業された「シャッターガード」でお馴染みの沢田防災技研の沢田社長と比留木さん、鳥取県立図書館から小林さんと大原。森田理事さんもほぼ1日ブースで活動を応援してくださり、折に触れてアドバイスをいただき、心強い存在でした。

来場者は、図書館がビジネス支援を行うことにおおむね好評でした。図書館がこのようなサービスをしていることをはじめて知った、ビジネス支援サービスはどこ図書館でもしているのかといった質問を次々に受けました。最先端の科学技術に関心があり、情報リテラシーの高い人が集まっている中で、図書館サービスが好意的に受け止められたことに図書館に対する期待とPRの手ごたえを感じ、大いに勇気づけられました。

また、数多くのブースがある中で、ほぼ休みなく参加者に声をかけることができたのは会場入り口という好立地に出展させていただいたおかげです。一緒のブースで“営業”した方をはじめ、応援してくださった方、参加者のみなさんからいろいろな刺激を受けた一日でした。

図書館の機能はまだまだ知られていないけれど、PRにむけて、地元の図書館が充実することが欠かせないとも実感しています。「ちいさな一歩」でも自分にできることから少しずつ進めたら・・・と思います。

みなさんお疲れ様でした。

鳥取県立図書館 司書 大原幸恵